

(様式 1-3)

福島県(浪江町) 帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票
令和2年10月時点

※本様式は1-2に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	206	事業名	被災地域農業復興総合支援事業(畜産施設整備)浪江町(基金型)	事業番号	(5)-43-45
交付団体	福島県		事業実施主体(直接/間接)	浪江町(間接)	
総交付対象事業費	488,115(千円)		全体事業費	9,210,480(千円)	
帰還・移住等環境整備に関する目標					
<p><現状></p> <p>浪江町では、震災前、乳用牛飼養農家が32戸で633頭、肉用牛飼養農家が63戸で512頭、合計95戸で1145頭(農林業センサス2010)を飼養していた。全農家戸数1019戸中、9.3%の95戸が畜産に関わっていた。しかしながら、地震及び津波被災や原発災害による長期避難のため、畜産施設・機械の劣化、さらには飼養牛の殺処分を余儀なくされた経験から畜産経営意欲が低下し、震災前畜産農家で牛飼養を再開した者はおらず、町全体の帰還農業者の割合も震災前の5%程度に留まっている。</p> <p>一方、町では水田農業の復活を目指して農業復興拠点の一つとして乾燥調製貯蔵施設を整備し、町民の帰還、農業再開の促進に向けて取り組んでいるところであるが、円滑な営農再開のためには除染により地力が低下したほ場の地力回復を図る必要があることから、耕畜連携を促し、農業者が安心して営農できる持続可能な営農継続システムを確立することは喫緊の課題となっている。</p>					
<p><農業振興の方向性></p> <p>町では農業再生の施策の一つとして大規模酪農施設整備を実施し、風評の影響が少なく、安定的な需要及び価格が見込まれる酪農業の再生を目指している。また、耕畜連携を促すことで、堆肥供給によるほ場の地力回復を図るとともに、水稻や飼料用トウモロコシなど土地利用型作物による営農再開面積の拡大を図る。</p> <p>さらに、施設内に新規就農者研修施設を設置することで、浪江町に新規就農する人材を育成するとともに、研修の一環として研究受託部門を持つことによって、大学や企業との連携が促進され、交流人口の増加、研究受託による収入の確保等が見込まれる。</p> <p>また、震災により畜産経営を断念してしまった地元畜産農家(10名程度)を含め、25~30名を周年雇用する予定であり、新規雇用の創設により生活基盤を構築することで町民の帰還促進を図るとともに、町の基幹産業である農業再生を目指す。</p>					
事業概要					
<p><本事業で施設を整備する理由></p> <p>浪江町の農業復興拠点として大規模畜産施設を整備することにより耕畜連携を図り、営農再開、町民の帰還を促進する。</p>					
<p><整備内容></p> <ul style="list-style-type: none">施設概要: 搾乳牛舎(A, B, C)3棟、複合牛舎(D, E)2棟、搾乳舎(F)1棟、哺育舎(G, H)3棟、育成舎(Ia, Ib, J)3棟、堆肥発酵舎(K)1棟、堆肥舎(L)1棟、飼料庫(M)1棟、機械倉庫(N)1棟、管理棟(P)1棟、研修生宿泊棟(Q)1棟、研修棟(R)1棟、敷料置場(S)1棟、パイルマスプラント(O)1棟、施設付帯設備農業用機械: トラクター(5台)、ロータリー(8台)、フォークリフト(ハイスト仕様、2台)、家畜運搬車 他 (敷地面積: 241,300㎡、施設面積: 49,210.15㎡)畜種: 酪農飼養頭数: 経産牛1,300頭、搾乳素牛80頭/年、肥育素牛700頭/年処理能力: 生乳10,000t/年、堆肥12,000t/年、液肥5,000t/年					
<p><市町村計画等></p>					

【浪江町復興計画（第二次）】

●農林漁業の再興 《目指す姿と取組》

(1) 新たな環境基盤による営農再開

- ・ 町内での営農再開と、徹底した全量検査体制の構築と広報

農業用水路等の復旧・整備を図るとともに、町民の意見を踏まえた農地の保全・再生や、推進委員会の設立、営農計画の策定等により、畜産を含む営農の再開を促進します。また、花卉栽培等による施設園芸等の複合農業への転換や、新たな営農形態による営農再開への挑戦を支援します。さらに、徹底した全量検査体制を構築し情報を発信します。

- ・ 生産基盤の整備と強化

農業関連施設等の整備・充実や農地の集約化（圃場整備）等により、畜産を含む営農の再開に向けた生産基盤の整備と強化を図ります。また、花卉栽培等による施設園芸等の産地化に向けた施設整備等、新たな営農形態にチャレンジしやすい環境をつくります。

【第二次浪江町農業再生プログラム】

重点課題3 生産基盤の整備

(1) 農業施設整備

これからの農業を振興するにあたり、農家単位での営農が難しくなった状況を踏まえ、水稻関連施設、花や園芸作物の関連施設、畜産施設といった共同利用等施設の整備について、地域や生産者のニーズを勘案しながら検討を進めていく。

当面の事業概要

<令和3年度～令和4年度>

建築実施設計 488,115千円, 積算業務(設計内訳書作成) 14,031千円

<令和5年度～令和6年度>

建築工事 6,916,642千円, 工事監理 125,026千円

<令和6年度>

機械設備 1,666,666千円

地域の帰還・移住等環境整備との関係

大規模酪農施設を整備することにより、浪江町への新たな人の流れが創出するとともに、担い手候補者の育成を進める。加えて、浪江町を中心とした被災休業酪農家10名が本施設に従事する他、直接的な地元雇用で計25～30名程度が見込まれる。また、事業の中心的な役割を担う県酪農協では、耕畜連携に伴う地元産自給飼料の利用を予定していることから、飼料生産に特化した生産組織等の立ち上げを進めることで、農業地域での就農機会の創出が期待される。

関連する事業の概要

○効果促進事業

第33回申請 造成設計・工事 1,627,491千円

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業

事業番号

事業名

交付団体

基幹事業との関連性

発行の五万分の一地形図を複製したものである。
(承認番号昭 東復 第 号)

位置図(浪江町大字棚塩)

位置図

